

## 第 134 回簿記検定試験 2 級解答用紙

### 商業簿記

#### 第 1 問 (20 点)

	仕		訳	
	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
1				
2				
3				
4				
5				





第 134 回簿記検定試験 2 級解答用紙

工業簿記

第 4 問 (20 点)

製造原価報告書

(単位：円)

I	直接材料費		
	月初棚卸高	( )	
	当月仕入高	( )	
	合 計	( )	
	月末棚卸高	( )	( )
II	直接労務費		( )
III	製造間接費		
	間接材料費	( )	
	間接労務費	( )	
	電力料金	( )	
	保険料	( )	
	減価償却費	( )	
	水道料金	( )	
	合 計	( )	
	製造間接費配賦差異	( )	( )
	当月製造費用		( )
	月初仕掛品原価		( )
	合 計		( )
	月末仕掛品原価		( )
	当月製品製造原価		( )

損益計算書

(単位：円)

I	売上高		42,580,000
II	売上原価		
	月初製品有高	( )	
	当月製品製造原価	( )	
	合 計	( )	
	月末製品有高	( )	
	原価差異	( )	( )
	売上総利益		( )

(以下略)

第 5 問 (20 点)

直接原価計算による損益計算書では、売上高から変動費を控除して (① ) を計算し、さらに固定費を控除して営業利益を計算する。第 1 期の①は (② ) 円、営業利益は (③ ) 円である。一方、全部原価計算によると、第 1 期の売上総利益は (④ ) 円、営業利益は直接原価計算と同じである。

第 2 期の営業利益は、直接原価計算によると (⑤ ) 円、全部原価計算によると (⑥ ) 円である。この営業利益の差は、全部原価計算において期末棚卸資産に含まれる (⑦ ) の分である。

仮に、第 2 期の製品生産量を 3,000 個とすると、期末製品在庫量は (⑧ ) 個に増える。このときの営業利益は、直接原価計算によると (⑨ ) 円、全部原価計算によると (⑩ ) 円になる。